

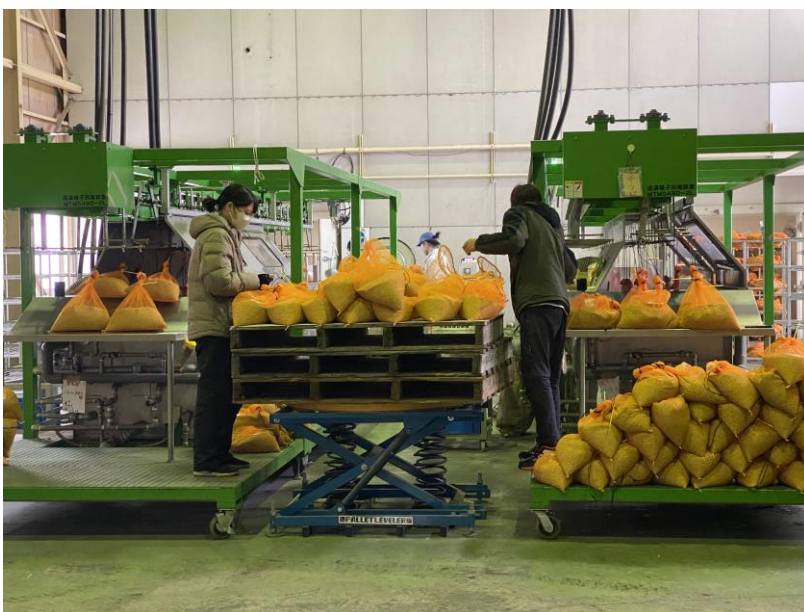
# 長畝ふるさと通信



【2025年1月号】

## ■ 令和7年産米スタートです

1月16日から令和7年産米の温湯消毒作業を開始しました。処理する種もみの総量はほぼ前年並み。世の中がこれほど「コメが無い、高くて買えない」と悲鳴を上げているにもかかわらず、生産調整は緩和されず昨年と同じ量しか生産できない状況となっています。備蓄米が一部放出されるそうですが、新米が出たらその分返すとの事。これでは流通量は増えませんから、ほんの一時しのぎにしかなりません。7年産のコメの集荷合戦はさらに苛烈さを増すのでしょうか。昨年、国は過去最大の税収を上げたそうですが、国民の生活は苦しくなる一方です。首相は「楽しい日本」にしていますが、今の日本は楽しいですか？



## ■ 再生二期作もありかも・・・



全国的なコメ不足にもかかわらず、コメを作れないもどかしさから新たな技術も生まれています。その一つが一度刈り取った稲株から出る「2番穂」を収穫する「再生二期作」です。以前は稲刈り後の株に2番穂なんて出てこなかったのですが、近年の温暖化の影響で稲刈り後も暖かいので、また次の穂が実りだすのです。その2番穂を収穫して主食用米にするというのでビックリ。野菜の二毛作や二期作は1年に2度種を蒔いて収穫しますが、再生二期作は1度の田植で2回収穫するということですから、「1回で2度おいしい」技術と言えますが、収穫量が2倍になるものではないし、品質においても(お茶の出がらし的な)疑問が残ります。そうまでしてもコメの収量を確保したいというコメ百姓の気持ちを政府はどう感じているのでしょうか。一刻も早く騒動を終結し「楽しい日本」を作ってもらいたいと思えばかりです。